

# 広報 かわぐち

発行 新潟県川口町長 青柳 弘  
編集 川口町役場 総務課  
(〒949-75 ☎0258(0)89-3111)

## 消防吏員募集

小千谷地域  
広域事務組合

### 昭和六十四年度採用

- 一、応募資格
    - 小千谷市、川口町又は山古志村に住所を有し、高校卒・短大卒23歳未満(昭和41年4月2日以後に生まれた者)大卒26歳未満(昭和38年4月2日以後に生まれた者)の男子で高校卒業以上の者
    - 普通自動車運転免許を有すること。(高校新卒者については、採用後6ヶ月以内に取得すること。)
  - 二、申込み受付期間
    - 9月12日(月)から9月24日(土)までの間
  - 三、申込み先
    - 川口町役場総務課(又は小千谷市役所、山古志村役場総務課)
  - 四、採用予定人員
    - 四名
- ※詳細は川口町役場総務課へ  
電話八九一三一―一へお問い合せください。

## 国民健康保険に加入の皆さんへ 保険証が九月から「はだ色」に

みなさんのお手元にある保険証が九月一日から「はだ色」に変わりました。

このため、病院・診療所等で受診する場合は「はだ色」の保険証で診療を受けましょう。今までの「うぐいす色」の保険証は八月三十一日かぎりで使用できなくなりましたので、役場町民課までお返し下さい。

◎学生(学)、出稼等(出)の被保険者証の交付を受けている

方で引き続き交付を必要とする方は改めて申請して下さい。

◎新しい保険証を受けとったら新しい保険証を受けとったら、注意事項をよく読んで使しましょう。

◎届け出は早目に！  
世帯主の方は、自分の世帯の被保険者の資格に異動があった場合には必ず十四日以内に届け出るようにして下さい。

## 町の観光自慢を募集

新潟県では、観光資源を幅広くとらえ、地域の個性や特色を再発見し、観光客におすすめてできる「わがまちの観光自慢」を募集しています。

これは県内外の人達に観光資源として広くアピールし、

善意をありがとう

### 町商工会婦人が寄附

この度、川口まつりで好評をばくした、町商工会婦人部(部長堀沢峰子)の「婦人みこし」の皆さんから、温かい善意が町の社会福祉協議会に寄せられました。



これは、同婦人みこしに上がった花代の中から、少しでも世の中の役に、寄附されたものです。心から厚くお礼申し上げます。

誘客を図ろうというものです。「川口町の観光自慢」の推せんに協力ください。

### 応募方法

・用紙 応募の投かん箱は役場総合窓口に用意しています。

・期間 九月一日～二十六日

問合せ先 川口町産業課

## 停電のお知らせ

9月28日(日)  
9:00~11:00  
西倉の一部

## 補聴器相談会

補聴器の修理、点検調整及び正しい使い方の説明などの相談会を次により行います。

日頃から耳の聴こえ、補聴器の具合でお悩みの方は、おさそい合せのうえおこしください。なお、身障、戦傷手帳をお持ちの方は、その手帳と印鑑をご持参ください。

日時 九月十七日(土)  
午前九時三十分～  
十一時三十分

会場 末広荘

昭和63年9月1日現在	人口	6,504人
	男	3,174人
	女	3,330人
	世帯数	1,504戸



町民体育祭(8月28日)  
入場行進

おもな内容	第30回町民体育祭..... 2~4	富士登山と210キロを走破..... 12~13
	20歳おめでとう..... 6~8	カメラリポート..... 14~15
	安全運転をお願いします..... 9	スポーツコーナー..... 17
	荒屋遺跡発掘調査は順調..... 10	ポンプ操法競技大会..... 18

# スポーツの町宣言 特集

# スポーツ



▲「持久走」女の子も頑張る



▲「アドベンチャーリレー」  
童心にかえてネットくぐりも鮮やかに



▲「紅白玉入れ」  
なかなか難しいコントロール



▲いつも接戦「水くみレース」



▲新種目「ゲートボールレース」  
おじいちゃん、おばあちゃんも張りきる



▲「幼児レース」



▲「綱引き」魂心の力をふりしぼって

を受けていた。

また、昨年に続いて参加者全員によるサマービッグクイズも行われ、体育祭の呼び物として定着、人気を集め、場内を笑いの渦と化した。

競技は、新種目の六十歳以上男女による「ゲートボールレース」など十一種目にわたって行われ、特に綱引きには力が入り、応援も最高潮に達した。そして、最後に飾る地区館対抗リレーに選手は、地区の名譽をかけて力走。応援席からひととき大きな声援が送られていた。

そして今年の優勝は、昨年に続き西川口地区館に輝き、準優勝は、接戦を演じた和南津、田麦山地区館が同点となり、ジャンケンで田麦山地区館が手にした。

今年で第三十回を迎えた町民体育祭。そして昭和五十八年八月、スポーツの町宣言を行って五年、健康と心のふれあうスポーツの町として、地域住民が一同に集まり、スポーツの輪を大きく広げたこのスポーツの祭典、町民体育祭は今年もさわやかに幕を閉じた。

# の祭典



▲「選手宣誓」スポーツ精神にのっとり…



▲親子で、みんなで「入場行進」



▲「馬とびレース」若さがいっぱい！



▲やきもきさせた「ジャンケンリレー」

# 健康と心のふれあいをテーマに！ 第三十回町民体育祭

今年も盛大に

健康と心のふれあいをテーマに町民体育祭は八月二十八日(日)、総合運動公園多目的広場で今年も盛大に行われました。

午前九時、入場行進がはじまり、川口中のブラスバンド吹奏に合わせ、国旗、大会旗、スポーツ旗に続き、前回三位の泉水地区館を先頭に、七地区館から四百四十名余の大選手団が堂々の入場行進を行い、続いて昨年の優勝杯(西川口地区館)準優勝杯(東部地区館)の返還と選手を代表して佐次修さん(西川口地区館)が力強く選手宣誓を行った。

この日は、昨夜来の雨も上がり、好天に恵まれ、夏の太陽が照りつけるなか、各種目におたって熱戦が繰り広げられた。

その中で、今年も川口小鼓笛隊(百六十七名)によるマースゲームをはじめ、アトラクションの川口あり太鼓(四十名)や田麦山小の少年消防クラブ鼓隊(四十七名)による演奏も行われ、子供たちの熱演に、体育祭は一段と盛り上がった。そして、町消防団第二分団(中山地区)による小型ポンプ操法模範演技が披露され、会場から盛んな拍手

# 豊かな老後生活は健康と生きがいづくりから

65歳以上の高齢者が総人口の7%を超えると、その国は「高齢化した社会」といわれます。すでに日本は昭和45年にこのラインを突破し、現在は総人口の10.9%、10人に1人が65歳以上の高齢者となりました。さらに西暦2020年になる

と、ほぼ4人に1人の割合になると予想されています。これからはますます進んでいく高齢化社会を前に、わたしたちはどういった対応をしていけばよいのかを考えていきましょう。



最近若者文化が華やかで、高齢者の社会的な役割や地位は低下する傾向があります。また、高齢者自身も、若い世

## 人生の完成期をいかに過すか

代との交流がうすれ、主に同世代の人間関係を中心とした生活をしがちです。しかし、この時期は人間として最も充実した「人生の完成期」です。孤独に陥ったり、無為な日々を送るのはもったいないといえます。そこで、若いうちから「老後に何を生きがいにするか」ということを考えて、少しずつでも行動を起こしておきたいものです。それでは、すぐにでも始められる例を挙げてみましょう。

## 健康は一生の「財産」

昭和六十二年の日本人の平均寿命をみると、男性が七十五・六一歳、女性が八十一・三九歳となり、前年よりも約〇・四歳延びました。六十歳で定年退職とすると、その後約二十年近くの人生があるわけです。この時期を楽しく、安心して暮らしていくうえで、一番の心配事は「健康」です。昭和六十一一年の「長寿社会に関する世論調査(総理府)」では「身体が自由がきかず、元気で活動できないくらいなら、長生きをしたくないとは思わない」という人が全体の八一・四%を占めていました。ところが昭和六十一一年の国民生活基礎調査(厚生省)をみると、六十五歳以上のお年寄りの有病率は、千人中六



▲「大なわとび競争」15人で1分間の回数を競う



▲「アベック二人三脚リレー」いきもピッタリ



◀ 応援風景 ▶



▲「百足競争リレー」練習の成果を発揮!



▲「各界健脚リレー」先生も頑張る!



▲小・中学生～高校生～20代～30代～40代～50代以上による「地区館対抗リレー」今年も大熱戦が繰り広げられた

## 優勝 西川口地区館 三連覇!!

準優勝 田麦山地区館 三位 和南津地区館



百四十四・五人にもものほり、かなりのお年寄りが病氣と闘いながら暮らしていることがうかがえます。しかもこの数字は、わたしたちの寿命が今後も延びることを考えると、さらに増えると思えます。

**お年寄りの体の特徴を知ろう**

ところで、高齢者の健康状態には、次の四つの特徴があるとされます。

- ①病氣にかかりやすい
- ②一人の患者がいくつもの病
- ③慢性の病氣が多く、治療が長くかかりがちになる。
- ④再発や他の病氣の併発を起しやす

この四つのポイントを頭において、若いうちから日々の健康づくりを心がけていくことが大切です。栄養のバランスを考えた食事をする、体操や散歩などの適度な運動をする、定期的に健康診断を受ける、ことなどを実行していきたいものです。

気をもつことが多い

趣味のある人生は、「次に何をやるか」「次はこうしてみよう」という創造性や楽しさがあるため、心に張りがあります。若さを保つことにもつながります。また趣味を通じて、若い人から高齢者までさまざまな人と知り合うことができ、若いうちから探しておきましょう。

**地域でボランティア活動を**

「何か人の役に立ちたい」と思っている方には、ボランティア活動をおすすめします。例えば、体の不自由な方の介護や一人暮らしの老人を訪問したりすることは、その人を元気づけるだけでなく、自身の成長にもつながる絶好の機会でもあります。また、ボランティア活動は、地域の連帯と活力を生み出すものといえましょう。

九月十五日は「敬老の日」この日から「老人福祉週間」が始まります。人生の先輩である高齢者の話を聞くことは、あなたにとっても社会にとっても大きなプラスになるはず



▲ワインで乾杯

# はばたけ 20歳 青春

# おめでとう

## 成人を祝う

第三十八回の成人式が、八月十四日サン・ローラ川口で盛大に行われました。

町に住む者、都会で働く者や学生など今年の成人達齢者は百四十人。このうち帰省した者を含めて八十七人が集った会場は、若者の熱気がいっぱい、懐かしい顔をみつけて歓声を上げ、成人を喜びあっていた。



▲第38回成人式—今年の成人達齢者は104名で、87名が出席して盛大に行われました。8月14日サン・ローラ川口で

## 創造性と活力のある人間に

この日青柳町長は、成人を祝福するとともに、「荒屋遺跡」という日本最古の文化遺産をもつ川口町を誇りに思っ、人生を開拓するよう励ましました。

また、青柳町長はこれからの町づくりについての考えを話され、中山高原を核として「野外学習むら」「生涯学習のむら」「原始古代むら」をつくり、

## 二十一世紀のために 力強く前進することを誓います

これからは自分の立場と責任を自覚して、若者らしく活気に満ちた行動力によって、川口町の発展に協力したいと思えます。

町長さんから、これからの町づくりについての方向を示していただきましたが、私達もこれを目標に多くの行事に参加したり活動を重ね、自分達の町であるという意識と、

## 重い荷物をもらって



星野裕之さん(川口)

先日成人式を迎え、町長さんはじめ議長さんのお話しをお聞きし、今まで家の人や先輩から言われ、想像していた以上に責任を感じました。

法律的なおとなの仲間入りをした事を再認識しました。大人になることは、一人前の人間として社会に巣立つと言うことで、何か大変重い荷物を受け取ってしまったような気持ちです。

誰もが通り抜ける一つの節目である二十歳を、今私自身成人式という形で、現実に向き合っています。「立派な社会人となってほしい」とはなむけの言葉を言われると、責任を重く感じてしまいます。私は成人式を迎え、これからが本当の社会人としての始まりだと思っています。今迄はただ漠然と過ごしてしまっただけですが、これから自分なりに、理想とした先輩達に少しでも近づける様努力したいと考えています。私なりに今まで模範としたい先輩達に、たくさん出合っていました。そういう人々を常に思い起こしながら、これから厳しい人生の荒波に向って、スタートしたいと思えます。



▲祝福と激励を送る青柳町長

これを相互活用した「滞在型家族旅行村」を建設して誘客をうながし、町の活性化を図りたい。そのために、本年は「ファミリーゴルフ場」と「オートキャンプ場」がオープン。今後いろいろな施設を作っ



▲誓いを述べる成人代表

町を愛する心を高めたいと思えます。

すばらしい施設である運動公園に、さらに「ファミリーゴルフ場」と「オートキャンプ場」の建設が進められ、これがオープンしますと、滞在型家族旅行村として拡充が図

## 成人式を迎えて

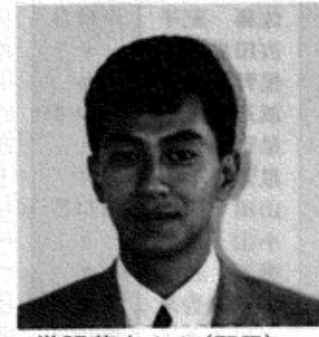


関 美幸さん(西川口)

成人式も無事終わり、今、正直なところ不安です。今までは、「子供」、「十代」という世間一般に通用する武器があった訳ですが、今、成人式も終わり最強の武器も取り上げられ、「私は成人しました」と言ってしまうました。

これからは、自分の判断が、「自分の行為」「自分の責任」となる訳です。今までの甘えが強かった分とても不安です。その発言に備えるには、まだまだだと思えます。でも、努力はしますので、みなさんどうぞよろしくお願いします。

## これからの自分



覚張芳文さん(野田)

成人式を迎えたからといって、何ら今までと変わった所はない。これからも自分自身が急激に変化していくことはないだろう。

この二十年間というものにはなにも考えず、目標らしいものもなかった。ただ目先のことが考えず、一日一日が楽しくてきた。ただこれからは、周囲の目が、今までは違ってくると思う。一人前の大人として厳しい目で見られ、自分自身にかかる責任の重さも年を追うごとに増してくる。だからといって背のびせず一つ一つ着実に成長していきたいと思う。時には失敗することもあるだろう。しかし、失敗を恐れず何事にも興味を持ち、自分自身を磨き大きくしていきたいと思う。



# 緑が多く自然が豊かな町 観光・レジャーの町としても期待

アンケートは、成人式に出席した八十七人にその場で答えてもらったもので、八十七人中、約半数が町に住んでおり、二割の人が大学などで学

## 新成人87人に聞く

### ＝アンケート結果ご紹介＝

※数字の合わないのは無回答

アンケートは、成人式に出席した八十七人にその場で答えてもらったもので、八十七人中、約半数が町に住んでおり、二割の人が大学などで学

四割を占めておりました。また、「町の好きなところ」は、過半数の人が緑が多く自然が豊かと答えております。以下、アンケートの結果は次のとおりです。

- Q1 あなたの性別は  
男 39人 女 48人
- Q2 あなたの職業は  
会社員 62人 公務員 3人  
自営業 1人  
家事手伝い 4人  
学生 17人
- Q3 あなたの住んでいる所は  
川口町 43人 県内 13人  
県外 31人
- Q4 将来川口町に住みたいですか(○3で町外と答えた人)  
住むつもり 2人  
住みたい 11人  
住むつもりはない 10人
- Q5 川口町をどのように思いますか  
1 好き 27人  
2 まあまあ好き 38人  
3 どちらでもない 17人

Q6 川口が好き、きれいな理由は  
※Q5で答えが1,2の人  
緑が多く自然が豊か 34人  
住みよい 14人  
生れた町、育った町、おちつくから 8人  
食物がおいしい 2人  
その他 8人

- ※Q5で答えが4の人  
雪が多い 2人  
不便 1人  
若者が少ない 1人
- Q7 川口の将来がどのようになったらいと思えますか  
観光、レジャーの町 25人  
住宅地として 7人  
このままでよい 13人  
商工業の発展で働く場を多く 7人  
スポーツの町 8人  
その他 4人
- Q8 仲間づくりや学習のためのグループや同好会をどう思いますか  
必要だ 25人  
何かやってみよう 15人  
必要と思うができない 20人  
どちらでもない 22人  
必要ない 5人

## 安全運転をお願いします

### 安協婦人部懸命の呼びかけ!!

夏の交通事故防止運動期間の八月十二日、町と小千谷市交通安全協会は、国道十七号線沿の堀之内除雪ステーションで合同の交通安全指導所を設置し、ドライバーに安全運転の呼びかけをしました。

い、安全運転に心掛けてもらおうというもの。この日、同協会や婦人部会、交通指導員そして小千谷警察署の皆さん合わせて五十名余により事故防止作戦が展開された。ドライバーたちは、「安全運転をお願いします」という婦人部の皆さんの呼びかけに、それぞれ冷たい飲物のサービスを受けながら、安全運転に心を新たにしていた。

#### 町交通安全協会

(会長・石坂久平)では、事故防止の重点目標の一つとして、この街頭における安全運転の呼びかけを行っており、今年八回予定しています。この他に、「ことごとお年寄りの交通事故防止」「地域・職場・家庭内での交通安全思想の普



▲ 8月12日、川口町と小千谷市合同交通安全指導所を設置  
国道17号 堀之内除雪ステーションで



▲ 懸命に安全運転を呼びかける婦人部の皆さん



▲ 冷たい飲物もサービス



▲ テントも張られ、ドライバーも一休み

及徹底」などを重点目標に掲げ、交通安全教室の開催、交通安全パレード、女性ドライバーの安全運転の推進などを計画しており、事故防止に全力を上げて取り組んでいます。

#### 死亡事故「ゼロ」

#### 千日運動を展開

また、交通死亡事故「ゼロ」千日運動を展開中で、今現在(九月一日)七百六十日目を達成しております。皆さんで「交通事故にあわないよう」そして「起こさないよう」一人一人が気をつけることが最も大切です。

交通安全にご協力をお願いします。



## ビックリマンも一役

### 交通安全に……

交通安全に、ビックリマンも一役かっています。ライバーに安全運転を呼びかけています。なお、ビックリマンは川口まつりの万灯(役場互助会製作)として作られたものです。夏の交通安全防止運動に利用させていただきます。

●川口中学校卒業生名簿及び住民基本台帳による (S42.4.2-43.4.1生れ)

昭和63年度川口町達年齢者名簿				昭和63年度川口町達年齢者名簿										
上河原	中沢	学	川口1	古田島秀一	川口7	竹内	美保	川	岸	星野	靖江	相川2	広井	春美
"	喜多村豊和	和	"	大湖 美幸	小和北	関口	和浩	"	"	小西	仁美	相川3	井上	千夏
長	喜多村真弓	弓	"	関 由美	相川口	関	秀隆	"	"	中林	みゆき	前原	渡辺	多恵子
"	丸山 裕子	子	"	中林 辰也	"	真島	啓至	"	"	松井	幸子	大形	橋井	幸宏
下	覚張 哲郎	郎	川口2	小山美和子	岩出原	笹崎	裕之	"	"	綱	正樹	"	小見	淳子
野	喜多村秀雄	雄	"	小川 祐子	山の相川	関	美幸	牛ヶ島	牛ヶ島	渡辺	克久	"	小川	尚子
"	古田島睦美	美	"	古田島典子	"	広井	麻美	"	"	保科	晃之	田	森山	千賀子
"	覚張 芳文	文	"	国枝真由美	荒屋	樋口	政幸	"	"	山田	智広	中	森山	真由美
"	星野 和之	之	"	中沢みちよ	"	大湖	和子	"	"	丸山	園生	大谷内	内山	真由美
中	平沢登志子	子	川口3	山田 孝司	新敷	星野	秀明	"	"	江島	光好	"	森山	奈穂子
山	佐藤 聡子	子	"	星 みゆき	"	小宮山	弘樹	貝之沢	貝之沢	江島	祥子	"	森山	由美
竹	古田島聡子	子	"	渡辺 藤衛	原新田	小宮山	義久	"	"	丸山	博義	"	桜井	由美
"	古田島雄一	一	"	中林 美紀	"	山田美	佐子	武道窪	武道窪	宮	正弘	"	内山	努
"	渡辺 宏明	明	川口4	岡村 仁	"	山田美	佐子	"	"	綱	裕子	小	石坂	栄子
"	星野美代子	子	"	渡辺 哲男	"	小宮山	宏樹	"	"	阿部	博行	"	大湖	美佐子
牛ヶ首	星野 実	実	川口5	上村 泉	"	山田美	紀子	"	"	宮	直美	木	星野	治子
川口1	山田 康浩	浩	"	星野 裕之	中新田	関	浩和	"	"	渡辺	富代	"	星野	憲司
"	小山 良樹	樹	"	中林 弘美	"	関	真由美	相川1	相川1	広井	ひとみ	"	星野	洋
"	堀沢 正之	之	川口6	小山美代子	"	山田	英子	"	"	石坂	典子	峠	星野	みどり
"	綱 由香里	里	川口7	佐藤 裕一	西倉	阿部	真理子	相川2	相川2	広井	智朗	鷺	波多	冬
"	山田久美子	子	"	阿部 康則	川	渡部	博朗	"	"	山崎	太一			

荒屋遺跡の発掘調査は、考古学者芹沢長助氏の担当で東北大学と京都大学が協力、八月十七日から現地での作業が始まり、天候にも恵まれて順調に進んでいます。

同遺跡は、三十年前の調査で二千点以上の石器類が出土し、旧石器時代のもものと確認され、考古学会や世界の学者から注目されていました。発掘現場では、三十年前の発掘跡も確認され、現在その周辺の調査が行われています。

今回もすでに石器類は数多く出土していますが、特に、



### 荒屋遺跡

## 発掘作業は順調 住居の発見に期待

荒屋遺跡はおよそ一万三千年前の旧石器文化の遺跡であります。

旧石器時代というのは石斧とかハンマーのような石の道具を使った時代のことで、縄文時代というのは石器に加えて縄目の模様をあしらった土でつくった器を使った時代のことを言う。



直接私たちの祖先であるかどうかは不明であるが、ともかく荒屋には旧石器時代人が生活しており、彼らの生活していた所は河岸段丘であって荒屋も川より十二メートルの段丘上にあります。どのような生活をしていたか興味深いものがあります。

生活とのかかわりが深い住居跡などの遺構がみつかる可能性もつよく、大きな期待がもたれると見られます。

ソ連の考古学者  
なども訪れ、見学

八月二十二日と二十三日には、ソ連と韓国の高名な考古学者が現地を訪れ、県内外の研究者も連日見学しています。

現地での発掘は九月八日頃までの予定で、その後は東北大学研究室で分析調査されることになっています。

## 「ツイン・ホリデー」を

# 完全週休二日制確立の合言葉に！

### 新しい法定労働時間 制度がスタート

法定労働時間を週四〇時間労働制に向けて段階的に短縮することなどを内容とする改正労働基準法が昭和六十三年四月一日から施行されています。



一週間の法定労働時間は、従来の四十八時間から段階的に短縮され、将来的には四〇時間とすることが、労働基準法上明確にされました。

当面の法定労働時間は週四十六時間ですが、これは、昭和十六年を目標に四十四時間とされ、一九九〇年代前半のなるべく早い時期には週四〇時間とする予定です。

各事業場では、この段階的な短縮のスケジュールを念頭において、計画的に労働時間の短縮を進めていくことが望まれています。

### 労働時間の短縮は 週休二日制の拡大で



一週間の労働時間を短縮するには、週休二日制の拡大によって対応することが望ましいと考えられます。

これは、休日を増加すれば通勤時間が不必要となる点や、まとまった自由時間をもつことにより心身のリフレッシュ、家族との団らん、自己啓発にと、自由時間をより有効に活用できるからです。

### 週休二日制の導入で このようなメリットが

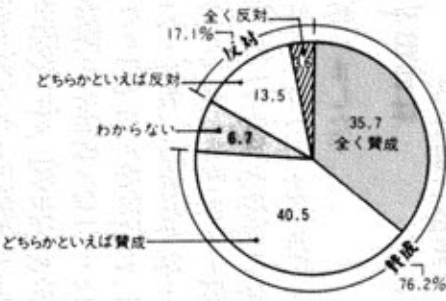
- 採用が有利になります。
- 働く人にとっては、週休二日制の企業は大きな魅力となり、人材確保も容易になります。
- 出勤率が向上します。
- 健康確保も容易になり、従業員のモラルアップなどの影響で、欠勤が減少します。
- 定着率が向上します。

週休二日制を導入している働きやすい職場では、やめる人も少なくなります。そのため、採用・離職にともなうコストが軽減します。また、当然熟練者も増えることとなります。

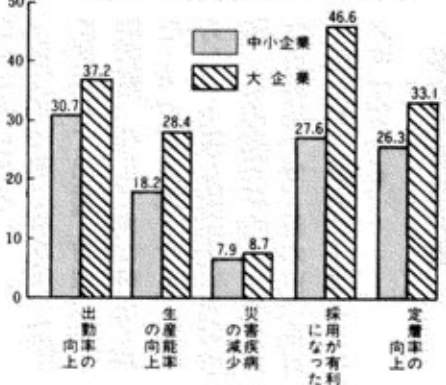
● 生産能力が向上します。

疲労が回復し、心身ともにリフレッシュすれば、勤労意欲も向上し、能率があがります。

週休2日制の実施についての賛否



週休2日制実施による効果



● 創造性豊かな人材が育ちます。

視野が広く、柔軟な思考を持つ創造性豊かな人材がこれからの企業発展の基礎です。視野の広さ、柔軟な思考は、充実した余暇生活から生まれます。

ちなみに、昭和四〇年代以降の労働時間短縮と労働生産性の関係をみると、総労働時間の約〇・九%の向上が対応しているという結論が得られています。

生産性向上で  
コスト・アップを吸収

労働時間の短縮によって、賃金コストがあがることを心配されるかもしれませんが、しかし、労働時間短縮に伴う労働者の勤労意欲向上や、労働時間管理の改善、生産管理・工程管理などの見直しなどによって、生産性の向上は可能です。そうすれば、コスト・アップのかんがりの部分は相殺されると考えられます。

去る八月二十一日、町公民館主催による囲碁将棋大会が総合福祉センターで行われ、結果は次のとおりです。

## 囲碁将棋大会結果

囲碁の部		将棋の部	
総合優勝	江島 正直	総合優勝	星野 宏和
総合準優勝	小山 和夫	総合準優勝	星野 寅二
A組 一位	小山 和夫	松組 一位	星野 宏和
二位	栗原 稔	二位	安達 三郎
三位	小宮山 忠夫	三位	星野 富吉
B組 一位	江島 正直	竹組 一位	星野 寅二
二位	広井 孝	二位	上村 功
三位	大淵 公男	三位	内藤 武二

## スポーツの秋 町民テニス大会

ふるって参加してください  
お待ちしております！

- 日時 10月2日 (日曜日)  
午前8時30分から
- 会場 川口町総合運動公園
- 申込み先 町教育委員会



# 富士登山と「富士山頂—田麦山」 ノンストップリレーマラソンに成功!!

## 登頂と二百十キロを走破 二十六人が力走に力走



▲富士山頂で記念撮影。スポーツ振興会の皆さん

田麦山スポーツ振興会（会長 長森山正夫）では、八月十一日から十四日にかけて、富士登山と富士山頂—田麦山ノンストップリレーマラソンを決定。登頂と約四百十キロメートルを走破するという偉業を成し遂げた。

これは、田麦山スポーツ振興会—田麦山スポーツ振興会—田麦山スポーツ振興会十周年を記念して、同振興会が計画し実施したもので、参加者はマラソンを愛好する同振興会のメンバー男女合わせて二十六名。小学生四人も加わり、一昼夜、二日間ぶっ通しで走り続けるという、困難をのりこえての挑戦であった。しかし、五十三年には、東京—川口間ノンストップマラソンを成功させ、その実績を持つ同振興会は、用意周到、万全の計画を立て、二十六人が共に助け合い、励ましあいながら見事に完走。二度目の偉業、そして大成功を収めた。



▲スタート直後、第一走者は森山さん

田麦山スポーツ振興会十周年を記念して、富士登山と富士山頂—田麦山ノンストップリレーマラソンを計画し、本隊二十一名、五合目サポーター二名、熊ヶ谷サポーター三名の計二十六名の参加を得て八月十一日から十四日に行いました。



▲5合目を走るランナー

十三日の朝二時起床、頂上を目指して出発。吉田口頂上に四時、そして剣が峰近くのピークで御来光となる。素晴らしい太陽と蔭富士に再び感激。日本最高の剣が峰到着は五時三十分、目の前の火口をはじめ、三百六十度の大パノラマである。

### 富士山頂剣が峰をスタート

入間市より東松山を経て、熊ガ谷へとコースをとり、すでに二〇〇キロメートルを走破。連夜の不眠と暑さで苦闘がつづいた。こんな中で、女性、小学生の起用に踏み切る。たとえ五〇〇メートルでも役に立ちたいという申し出は嬉しかった。



▲夜中もぶっ通して力走

足の豆をつぶしての力走に力走が続く、一時間遅れの出発を取り戻すべき力走である。そして小出、川口を経てゴールの田麦山小学校到着は、十四日の夕方五時であった。



▲三国峠附近、タスキを引き継ぐ



▲拍手に迎えられゴールイン

### 女性と小学生も力走

予定通りの到着で大勢の拍手の中全員でゴールイン……富士山に登るだけでも大変なことであるが、四一〇キロメートルをノンストップで走りつなぎ、成功したこのことは、二十六名全員が一丸となつて、目的達成のために頑張った結果であり、チームワークの勝利であった。

### 三国峠も一気にかける

本庄市附近でBサポーター隊三名と合流。十七号線の沼田あたりから、お盆の帰省ラッシュとぶつかり難行する。幸いに三国峠は以外とすいており、一気にトンネルへとかけ上る。交通安全に、反射タスキとヘッドライトで無事三国と二居トンネルを走り抜け、湯沢に入る。

### 予定通りに無事ゴールイン

## 第1回「私が見た信濃川」写真コンテスト

新潟、長野両県における産業、経済、文化を育んでくれる母なる川、信濃川、この暮らしの中で生きる信濃川の風景や行事等を皆さんのカメラの眼で掘り起こし、豊かな自然環境に恵まれたこの地域をもっと身近にそして多くの人に知っていただくことをねらいとするものです。

### 作品募集

主催/建設省信濃川工事事務所  
協賛/(社)北陸建設弘済会  
後援/信濃川沿江市町村連絡会

対象地域/信濃川(新潟県)にかかる景観で、最近3ヶ年以内に撮影されたもの。  
募集作品/未発表のもので一人二点以内とし、アマチュアの方に限ります。印画紙のサイズはカラー、白黒ともサービス版以上四ツ切まででスライド、組写真は除きます。  
締切/昭和63年10月15日  
発表/入選作品決定次第各市町村公報紙等を通じて行います。なお、入選者には昭和63年10月末日頃までに通知します。  
審査/専門家に依頼して厳正に行います。

表彰/優秀作品には賞状と賞品を、入選作品には賞品を進呈します。  
送付先/〒940 新潟県長岡市信濃1丁目5番30号 建設省信濃川工事事務所 管理課 ☎0258(32)3020 及び川口町役場 総務課  
その他/(1)応募作品は返却致しません。なお、入選作品については後日ネガを提出していただきます。(2)入選作品の著作権は主催者との共有とします。(3)応募方法等については町役場総務課にお問い合わせください。



こちらは  
ボーイスカウトの  
皆さん

▲ボーイスカウトの  
独得の踊りです

▲聖火入場

▼お母さん方の隊  
出し物「合唱」

▼各隊による出し物  
宝島と海賊…で  
ゲームに興じる  
ボーイスカウト



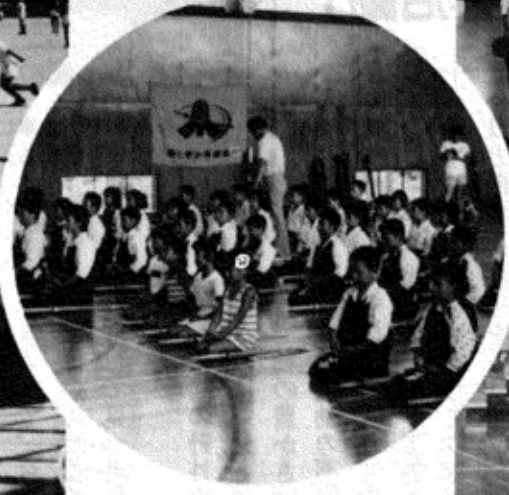
▲日の丸の旗を上げて  
全員集合

8月11日～15日  
町運動公園にて



▲サッカー、裸で汗を流す  
(公園グラウンド)

小年スポーツクラブ  
合同合宿  
8月20日～22日



▲剣道、町のスポーツ少年団も  
加わり正座(運動公園体育館)



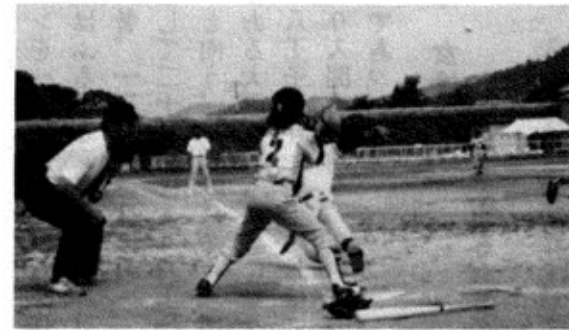
▲バスケット (川口小で)



▲卓球、交流試合で握手(川口中で)



▲体操、始める前の準備体操は  
エアロビクスで(川口中で)



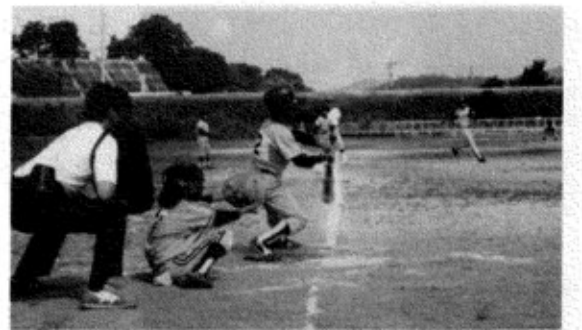
▲三塁ランナーホームイン(ジャガーズ)



▲フォームもきまり、頼もしいジャガーズのエース



▲戦い終わって皆んなで握手  
ジャガーズ(左) 東部(右)



▲三塁にランナーを置いて一打…?(東部)



▲僕左バッター レフト打ちもあざやかに  
(ジャガーズ)



▲記念品を交換。ジャガーズからは記念樹  
東部チームからはカブト虫を各々贈る



▲そして皆んなで記念撮影

# ジャガーズ(狛江)対東部(川口) チビッコ野球で交流を深める!

八月十日  
川口小グラウンド

## カメラ レポート

ふるさと友好都市狛江市から、子供たちが続々と訪れ、スポーツ合宿や野外活動に、そして町の子供たちと親善交流を行い、夏休みのひと時を過ぎました。

まず、少年野球の合宿が八月八日から十日(二泊三日)まで行われ、狛江、ジャガーズのチビッコ野球四十名余が訪れ、町の東部スポーツ少年野球チームと交流試合を行いました。

続いて十一日から十五日にわたって、同市のボーイスカウト百名余が来町。公園キャンプ場で野外研修を行いました。そして二十日から二十二日は、剣道、柔道、卓球、サッカー、体操、バスケットの、同市スポーツ少年クラブ合同合宿が行われ、百八十六名が来町。町のクラブと交流試合を行うなど、合宿に汗を流しました。

その様子をカメラで追って見ました。ご紹介します。



小学生交歓会に参加

宿泊研修を初体験

— 県少年自然の家で —

小学校の子供たちが、県内他町村の子供と一緒に、行方研修のつどいに参加し、新しい体験をしました。夏と自然と友だちとをテーマにした少年団体リーダーのつどいに、川口小学校の五年生五人と引率の先生が参加したものです。

野外活動の知識や技術をねらいに、このつどいは、交歓活動を通じて理解と連帯を深め、野外活動の初歩的な知識や技術を身につけることをねらいとして県教育委員会が主催し、七月二十七日から二泊三日で北蒲中条町の県少年自然の家を会場に、県内の少年団体の五、六年生百八十人が参加した。つどいに参加した子供たちは、他町村の子供と共同生活をしたことや海辺での体験を、眼を輝やかせて報告してくれました。



▲海でとれた魚を焼いて、夕食の準備をする子供たち。

青少年の健全育成を目指して

町の教育委員会では、今年からこうしたジュニア・リーダー研修には積極的に参加させる方針で、小学生をはじめ北海道での中学生海のつどいにも派遣したほか、高校生ボランティアスクールも参加者があり、新しい形で青少年の健全育成をめざしています。今回参加の五年生は、磯部美雪、山田泰子、角張愛美、山田晃寛、川上悟史、引率渡辺先生



▲自分の手で、食事に使う「ハシ」や魚を焼く「クシ」をけずる子供たち。

子供たちに野外生活の体験を!! 「Tさん一家の野外活動」

八歳の男の子を持つ社会員、Tさん(三十八歳)は、二年ほど前から月に一度、息子と奥さんを連れて、近郊の山々にマイカーのハンドルを向けてきました。一時間ほど走って、名もない川のほと



りに車を止め、河原で昼食の準備にかかります。河原の石を積んでカマドをつくり、息子にたきつけ用の柴木を取ってくることを命じ、川で米とぎをさせます。そして飯ごうをかけてカマドに火をつけます。「電気ガマや電子レンジしか知らないから、ときどきメシが焦げてまっ黒になるのもご愛きようで、おやじってすごい、偉いんだなあと尊敬のまなざしで見つめられましたよ。」

少年主張地区大会(小千谷・北魚沼)

星野雅美さん(川口中) 最優秀賞を獲得

— 川口中昨年に続く栄冠 —



喜びの星野雅美さん

委員会の主催で、八月十九日に小千谷市民会館で開催され、各中学校の代表十二名が、学校、家庭、ふるさと、友人等のかかわりの中で、日ごろ考えていることを発表し、最優秀賞一名、優秀賞に三名が選ばれました。

県大会へ出場

県大会の予選を兼ねた、中学生による小千谷・北魚沼地区の少年の主張大会で、川口中三年の星野雅美さんが、最優秀賞を獲得して県大会に出場することになりました。川口中では、昨年に続いての栄冠で、大会九回のうち最優秀賞の受賞は通算で三回となりました。

この大会は、青少年対策協議会、社会福祉事務所、教育

課題「一生懸命やるについて考える」を発表

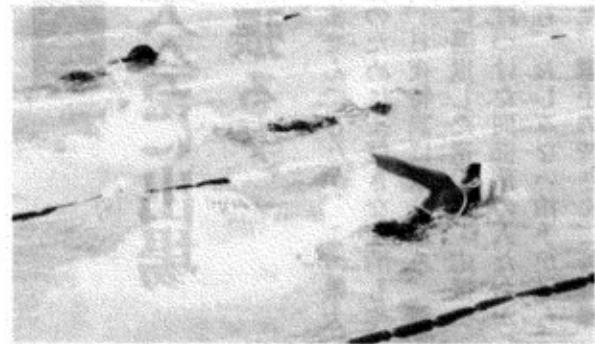
雅美さんは、大勢の聴衆を前にして、「一生懸命にやるについて考える」を課題に、いつも書いている自己反省ノートをみると、生徒会や部活動に一生懸命やったという言葉がたくさん使われており、本当に一生懸命だったのだろうかと疑問を感じた。その中で本当に一生懸命や

小学校水泳大会 郡大会で川口勢が善戦

郡内小学校児童の水泳大会が、守門小学校で開催され、川口勢は各種目に善戦して、多くの上位入賞者を出しました。この大会は、五、六年生の

郡大会上位入賞者(三位まで)

一位	五年 女 自由型	五十M	佐藤 渚	川口小
	五年 女 平泳	百M	石坂 聡子	川口小
二位	六年 女 背泳	百M	中沢まさ子	川口小
	五年 男 背泳	百M	大淵 修治	田麦山小
	六年 男 バタフライ	五十M	宮 徹	泉水小
三位	六年 男 自由型	百M	平沢 康紀	川口小
	六年 男 自由型	五十M	渡辺 奨	川口小
	五年 男 平泳	百M	関 耕二	川口小
	五年 男 背泳	百M	山田 義明	川口小
	六年 男 個人メドレー	二百M	平沢 康紀	川口小
	五年 男 個人メドレー	百M	桜井 祐一	田麦山小
	六年 女 バタフライ	五十M	広井真奈美	泉水小
リレー	二年 男 自由型		川口小学校	
二位	六年 男 自由型		川口小学校	
二位	男 メドレー		川口小学校	



わが家の安全対策

地震時には何が凶器になるかわかりません。被害を最小限に食い止めるために、家庭内での危険防止策は急入りに。

# かしこい備えと心得

＝わが家の安全度を知る＝



**10** 正しい情報をつかみ、余震を恐れるな

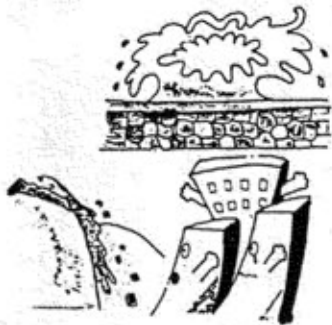
**9** みんなが協力し合って応急救護



**8** 避難は徒歩で、持ち物は最小限にする



**7** 山崩れ、崖崩れ、津波に注意する



## 地震の心得10か条

- 自己管理表**
- 安全地帯（トイレや押し入れなど）は決めていますか
  - 病人や幼児が寝ているところは安全ですか
  - 家具類の危険防止対策は？
  - 器具類（石油ストーブやガス器具、電気器具など）の安全対策は？
  - 家の外（ブロック塀など）や建物（屋根がわらなど）の安全対策は？
  - 危険物（薬品など）はきちんと保管してありますか
  - 消火用具（消火器、三角バケツなど）の備えは万全ですか
  - 避難用具（防災ずきんや厚手の手袋など）の用意はできていますか
  - 非常持出品の準備は？
  - 家庭防災会議は毎月1回開いていますか
  - 自主防災活動に参加していますか
  - 応急手当はできますか

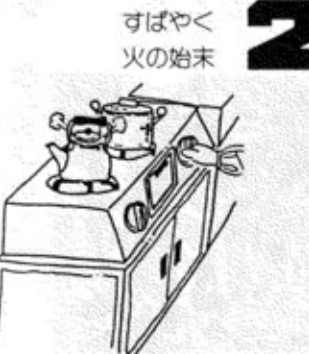
**6** 狭い路地、塀ぎわ、崖や川べりに近寄らない



**5** あわてて戸外に飛び出すな



**1** まずわが身の安全を図れ



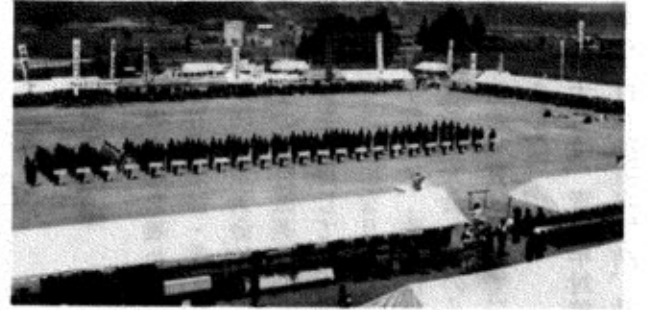
**2** すばやく火の始末



**3** 非常脱出口を確保する



**4** 火が出たらまず消火



▲会場に熱ぞろいした各消防団の代表チーム  
8月7日 十日町市西小学校グラウンドで

## ポンプ操法競技大会 第二分団が県大会に出場 一生懸命頑張る！



▲堂々の入場行進



▲応援にも熱が入る



**選手の皆様さん**  
ごくろうさままでした

町消防団第二分団長 渡辺 等

選手並びに団員の皆さん、県のポンプ操法大会に、朝早くからご苦労様でございました。去る八月七日、十日町市で行われた県大会に第二分団が出場し、堂々と十七番目に開会式の入場行進をすませた。県知事やたくさんの方の来賓、大観衆の見守るなか、小型ポンプの部、最後の演技者として、我が第二分団の四人の選手は準備線に立ちました。タイム、規律、動作とも上々で川口町消防団の名を県下に示してまいりました。そして、ポンプ操法の終わった後、思わず四人の選手と握手を交わ

この機会に川口町消防団が益々団結し、各分団のまとまりによって、町の火災予防や災害に備え頑張っていきたいと願うものです。また、若い団員に指導していきたいものがあります。

今後とも、町消防団にご協力下さいますよう、町民の皆さん宜しくお祈りいたします。

県大会という大きな大会に北魚沼地区支会を代表して、立派に責任を果たした選手の目に光るものを、今でも忘れることができません。郡及び県の両大会のために、選手は三カ月間毎日練習に励み、その熱心さには頭の下る思いで、いっぱいでした。

激励いただきました町長さんをはじめ、団長さん、本部の皆さん、そして毎日特訓していただきました消防署の方々に心から感謝をいたします。大変長い間有りがとうございました。

第三十九回新潟県消防大会ポンプ操法競技大会は八月七日、十日町市で県内の各支会を代表して、小型ポンプ十七台、ポンプ車六台が出場して行われ、当町の消防団第二分団（中山・和南津）が小千谷市・北魚沼郡（北魚沼地区支会）を代表して出場しました。

同大会は、新潟県と財新新潟消防協会が主催して毎年行われているもので、ポンプ操法を競い、消防技術の向上と全国大会出場権も兼ねており選手は勿論、応援合戦も盛大に行われ、炎天下のもとで熱戦が繰り広げられました。

同分団は、先の北魚沼地区支会競技会で、小型ポンプ操法の部で優勝。同優勝は初めてで、勿論県大会は初出場。この日、十七番目に入場行進した七人の選手は、堂々と行進を行い、青柳町長を先頭に、応援にかけつけた消防団の盛んな拍手を受けていた。競技においても、日頃の練習の成果を発揮し、立派に代表としての責任を果たした。成績の方はおしくも入賞で

きませんでした。この県大会のために、好きな晩酌もやめ、日夜特訓に取り組み、競技に邁進した選手に、応援にかけつけた同部落の人たちからも、おしめない拍手が送られた。選手の皆様も、苦しい大会、そして県大会と頑張ったその成果は、町消防団に発揮され、消防技術の向上にきっと生かされることでしょう。